

藤岡啓介の翻訳玉手箱
公開講座 プロになるぞ！！ 第3期 第7回
コメント一覧

とび色の目を血走らせて

血走らせる、となると大げさだな。当然「口火を切る」と勇ましくなる。

大都会ではありませんが、ここらへんでは市が立つ町ですから

やはりここも大げさかな。

それと「投函」じゃなく「郵便局」での用事、町での用事でしょうね。

もう一度

回数が問題ではなくて、わざとらしい態度の方が問題。

消えた方

ぼくには「消える」が気になる。スリラーだからそれもいいのかもしれないが、ちょっとオドロドロしくはないかな。

狂気を宿らせた

怖いな。

行くつもり

shallだから、「つもり」でいいのだが、ここでは「行きますが」といったときの「が」かな。

ありがとうと言ってから

「礼をいい」

わたしはといえば、これという理由があったわけではないが、

文字数が多くなっていますが、これは意識的。無駄な文字を入れると、「立ち去る」という動詞がはっきりしますね。

found

先にあった動詞leaveと同じように、日本語の発想にはない言葉です。ここで遠慮してはいられない。(ぼくが勉強した英文法では、完全他動詞、不完全他動詞、があって、目的語+補語がどうのと講釈されていました。

馬小屋

農場で飼っている家畜が「馬」だけならいいけど……

歯の間で回したり、
あっさりして良かったのに。

気まずそうに

graceなんだな。難しいけど、ここでは「気まずい」のニュアンスかな。「気が進まない」だと、サイラスが生意気すぎるし、「渋々」だと、「嫌だが」のニュアンスが強い。ここは「我ながら大人気なかったな」という気分で。

the man

明らかに「ミスター・サイラス」を指している言葉だけど、どうしてtoward him, toward Mr. Silasとしなかったのか？ 「人物」「雇い人」「あの男」と、そんな意味もあるよ、とどこかで作者が翻訳者に向かって北叟笑んでいるかも。towardとあるので、うまく響いてこないのか。

ねえきみ

これがmisterの対応語だと言ったら叱られるかな。でも、丁寧といっても状況での身分差がある。部分部分では訳しにくいけど、最後まで訳したら読み返して調子を調えるより仕方ないかな。